

飯田工業高校、ISO キックオフ!!



午後3時、暗幕で締め切られた会場の体育館の温度は、何度だったのでしょうか、とにかく半端ではない暑さでした。飯田工業高校(保高勝通・校長)のISO14001キックオフは、8月30日、文化祭の開祭式に先立ち行われました。「ISO14001キックオフ!! 私たちはO I D E精神を發揮して環境達成をめざして活動しています」の看板前のステージ上には県教育委員会や同窓会・P T Aの来賓。会議室での報道機関への経過報告では緊張していた松村浩道・生徒会長が全校生徒の前で実に力強く「取組宣言」。

現在の地球環境は、温暖化やフロンガスによるオゾン層の破壊が進み、今世紀末には深刻な状況を迎えると言われています。また世界には飢えに苦しむ人々があり、貧困のため教育を受けられない子ども達が多数いるという現実があります。21世紀の主人公である私たちは、これらの問題に真っ正面から取り組まなければなりません。私たち飯田工業高校生徒会は、今まで積み重ねてきたゴミの分別や地域での清掃活動などの実践を継続し、さらに自分たちにできる消灯などにより環境に負荷を与えない活動を進めていきます。また、積極的に学習に努め、環境に優しいものづくりの技術・技能の修得を目指していききたいと思います。私たちの行動は小さなものですが、やがて、大きな流れとなって、世界の人々と手をつなぎ、地球環境を改善してゆくことになると確信しています。この行動を起こすことに誇りを持って、ここにISO14001達成を目指す取り組みを開始することを宣言します。

挨拶に続き、保高校長から「地域ぐるみ環境ISO研究会」に「南信州いむす21取組宣言書」が手渡されました。環境方針は、環境学習の展開・生徒会活動の強化・環境負荷の低減・環境マネジメントシステムの構築・地域との協力の5項目と次の基本理念。「地球や地域の環境を保全し、未来の世代に望ましい姿で譲り渡していくことは人類共通の最重要課題であり、全地球市民が堅実で責任ある行動をとることが求められている。私たちは、学校

生活のあらゆる場面において環境に配慮した活動を行い、それをおして他の生物と共生する持続可能な循環型社会を築くことに貢献したいと考えます。私たちは、本校伝統のO I D E精神を發揮して環境に優しいものづくりをめざして活動します。私たちはISO14001に準拠した環境マネジメントシステムを構築し運用していきます。」(注)O I D E精神: Originality独創性、Imagination想像力、Device工夫、Effort努力をもって解決に当たる技術者魂。

4月に生徒会役員会で、松村会長からの「何か大きなことが今年できないか」の問いかけに、ある役員から「美化委員会を中心に毎日の清掃で教室から出るゴミの厳密な分別、春と秋の学校周辺のゴミ拾いを行っている。環境の時代、この活動を発展させることで何かできるのでは」、ISOへの挑戦となりました。まず、生徒会執行委員会で決定、6/20の生徒総会で全員に伝えました。また、生徒会に「環境ISO推進委員会」を作ることになりました。7/16に環境推進委員である執行部と委員長の28人が飯田市の小林ISO推進係長を招き学習会を開きました。今後は、南信州いむす21に参加する中で、生徒会としてできることをひとつ一つしっかりやっていきたいとしています。校門近くには真新しい決意表明の看板が立っていました。時間はかかっても、若者らしい、工業高校らしい楽しい取り組みを期待したいものです。

飯田コンピューター専門学校もキックオフ

8月26日、飯田コンピューター専門学校(榎原英勝・校長)でも、沢柳俊之研究会事務局長から環境問題の講義を受けた後、「南信州いむす21取組宣言書」が学生ら30余人の前で小林敏行・学生自治会厚生委員長から手渡されました。榎原校長は、「目的は取得することではなく、地球環境を子孫に残すために学校をあげて取り組むことにある」とし、「教員と生徒自治会、来校者が一丸となって問題点を模索し、改善に努めたい」と挨拶、自分たちで何ができるかを念頭に、身近なできるところからこつこつと取り組むことを強調していました。



どうしても、飯田工業高校のキックオフの今日、通信を出すことにこだわりました。体育館のあの暑さと生徒たちの熱気を伝えることはとてもできませんが...。飯田工業高校の文化祭は明日、明後日。

【ご意見 お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之 p05300@tamagawa-seiki.co.jp

小林敏昭 kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp

南信州いいむす(EMS)21の拡がり

「地域ぐるみ環境ISO研究会」と「南信州広域連合」が連携して昨年の10月からスタートした地域独自の環境マネジメントシステム「南信州いいむす21」。判定の上、登録証を発行する「南信州広域連合」は、飯田市と3町14村の自治体で構成され、広域消防や特別養護老人ホーム運営、要介護認定、ごみ・し尿処理などを行っています。12月からの廃棄物処理法の改正に対応し、環境に配慮した焼却施設、桐林クリーンセンター新焼却場を建設中です。12月1日稼働のこの施設は、事業費48億円余、ダイオキシン類の発生を抑える「流動床式熱分解ガス化熔融炉」。燃烧温度1,300～1,400 で24時間運転されますが、処理能力は、現在の120t/日(60t/日×2炉)から93t/日(46.5t/日×2炉)となり、地域全体で、とりわけ行政、市町村は、ごみの減量・分別回収・リサイクル活動を強力に進めなければなりません。

松川町、この地域の町村で初の取組宣言

松川町(職員数63人)は、8月19日、大場茂雄町長名の「南信州いいむす21取組宣言書」を提出しました。8月に、その取組を決定し、環境管理責任者を置き、各課局長からの推薦による「南信州いいむす21推進プロジェクトチーム」を構成、プロジェクトチームと総務課による推進会議を設置。その第1回会議で推進計画書と宣言書の提出を確認しました。当面、省エネ・省資源の取組から始め、ルール・マニュアルづくりを行っていくそうです。南信州広域連合で初めての松川町の「南信州いいむす21」取組により他町村への普及が期待されています。

飯沼地区事業所環境保全対策協議会

8月21日、研究会の2事業所が「飯沼地区事業所環境保全対策協議会」(林麓会長)の視察を受けました。ISO14001により工場全体で廃棄物の減量に徹底している盟和産業(株)と、「南信州いいむす21」に制度開始当初から取組み、今年3月、最初の登録証を受けた井坪設備工業(有)。協議会は、昭和51年8月に公害防止や緑化推進、施設の相互点検などを目的に発足し、上郷飯沼地区にある自動車関連事業所など現在会員は34事業所。視察には、会員事業所の他に地元自治会役員など10人も参加。とりわけ工程の中で出る端材についてリサイクル技術(粉碎・分離・熔融減容・ペレット化)を向上させ、廃棄物の削減に取り組んでいる本格的なISOの視察の後に「南信州いいむす21」を視察した協議会。井坪設備工業(有)から費用や手間などの問題でISO14001の環境改善が困難な小規模の事業所であっても、身近な廃棄物の分別・減量、そして何より環境を意識した企業活動はできる、とりあえず、できることから、できるところから行動に移すことが必要との説明。

協議会は、5月の定期総会でも「南信州いいむす21」について研修会をし、研究を進めています。今後は協議会として、ISO14001によるのか、「南信州いいむす21」によるのか、会員事業所がどのシステムで環境改善を行っていくかが注目されます。

飯田コンピュータ専門学校キックオフ

飯田コンピュータ専門学校(榎原英勝校長)は、8月26日、「南信州いいむす21」の取組宣言を同校で行うことになりました。当日は、沢柳俊之研究会事務局長の「みんなで学ぼう地球環境！みんなで取り組もう環境改善！」というテーマでの講演も行われます。専門学校との協力により、研究会は、小・中学校への出向しての環境学習への支援や工場見学など事業所への児童・生徒の受け入れに活用できる環境教育のソフトづくりなど幅広い活動への展開が今後のテーマです。

そして、飯田工業高校もキックオフ

飯田工業高校(保高勝通校長)は、8月30日、文化祭の開祭式に先立ち、生徒会執行部による経過報告、体育館で「南信州いいむす21」のキックオフをすることになりました。環境ISOへの取組は、生徒会から発案され、校長以下学校側もその可能性を探ってきました。市役所にも相談があり、認証取得費用の点からも当面「南信州いいむす21」での挑戦を提案してきました。生徒会が中心という活動は、生徒が3年で入れ替わり、体制と責任や教育訓練の面から難しい点は予想されます。高校による環境ISOへの取組例は、まだ少なく、県内の高校では初めて、ましてや生徒会中心となると全国的に稀なケースとなりそうです。限られた時間等制約の中でISO14001の規格に沿った自分たちのシステムを苦労して構築していく、そのプロセスは生徒たちに大きな学びとなるはず。環境改善の進むこの地域の高校、工業高校の取組に研究会としても積極的な支援をしていくつもりです。

支援のアンケートを行っています

研究会の「いいむす分科会」が「南信州いいむす21支援アンケート」を発送しました。ISO14001認証取得により卒業した形の2事業所を除き、正式に取組宣言の提出のあった34事業所に対し、現在の取組状況、支援の希望の有無、登録証の交付希望の有無などを質問し、システム改善への意見や提案を求めています。支援する側と支援を受ける側の考えの相違もきっとあるでしょうし、回収も含め、集約が待たれます。

「飯田りんご並木」の中には、色づきが進み、いつもより早めに収穫する木もあるようです。暑かった夏も確実に秋へ...

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之 p05300@tamagawa-seiki.co.jp

小林敏昭 kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp

8/9「研究会事業所代表者全体会」



地域ぐるみ環境 ISO 研究会の事業所代表者全体会が飯田市の中心市街地再開発ビルの2・3階にある地域交流センター「りんご庁舎」の会議室で8月9日(金)13:30から約2時間開かれ、前回の3/1の会議からの取組を検証し、絞り込まれた課題について熱心な議論がなされました。年に2度ほど事業所の代表者に参加を求めるこの会議の意義は、実務者による分科会を中心とした研究会活動を確認し、全体的な方向付けをしていくことにあります。と同時に、展開されている研究会活動を事業所の代表者に理解してもらうことにより、実務者が研究会活動に参加しやすい雰囲気を作ることになります。参加は、20事業所28人。

萩本範文(多摩川精機株式会社)研究会代表からの挨拶では次の点に触れられました。97年11月に6事業所で発足した研究会も丸5年近く、参加事業所も28事業所、全事業所7千人超という従業員数による活動は、この17万人という谷に大きな影響を及ぼしてきた。会員増により会の運営自体も難しくなってきたものの事業所内にとどまらない活動として次代を担う子どもたちの環境教育にどのように関わるかもこれからの大切な取組である。既に中部電力飯田支店がISOの取組として位置づけ小中学校、高校へ出前講座を行っているが、事業所見学会の受け入れや備品・図書等の提供なども含め研究会として何をしていくかを検討すべきだ。メンバーの飯田市古井助役からの飯田市役所におけるISO14001自己適合宣言への挑戦の話を受け、環境改善の考え方は踏襲するもISO認証取得を継続していくか否かは、環境対策に係る企業側のコスト増大からも今後の大きなテーマ、その点でも飯田市役所の自己適合宣言は注目される。環境の問題はエンドレスであり、マンネリ化しやすいので、この研究会を刺激の場として継続的な改善を行い、この谷がより一層環境に先駆的な地域であるように取組を進めていく必要がある、と。

「ひろめる」「さくげん」「いいむす」分科会

編成され直された3つの分科会のリーダーからは、それぞれ2回の会合による検討結果が報告されました。

16事業所とメンバーも多く運営も難しい「さくげん

分科会」、廃棄物の削減と集団回収でいかに研究会としてのスケールメリットを活かせるかが鍵。新聞古紙・廃プラのリサイクル、蛍光灯の集団回収。現在の廃棄物の種類・量・処理方法等の把握からそれらを探っていくことになりそうです。この地域独自の環境マネジメントシステム「南信州いいむす21」の普及をめざす「いいむす分科会」、昨年10月からのシステム運用開始以来、登録証の発行が4事業所・登録手続き中が3事業所、20数事業所が相変わらず取組宣言のままという現状、各事業所の現状を調べるアンケートで進展を図ることに。ただ、飯田工業高校や飯田コンピュータ専門学校、松川町役場、30近い多摩川精機協働工場など次々と取組の準備が進められており、システム改善も含め一番忙しい分科会になること必至です。教育・普及・啓蒙を担当する「ひろめる分科会」、「環境ISO研究会」であることを忘れず、各事業所で運用しているISO14001システムのレベルアップ、企業の特徴ある取組の水平展開、そして研究会全体のレベルアップのための勉強会の設定、7/26~7/27長野市ビッグハットでの「信州環境フェア2002」に引き続き、地元10/19~20の「生活と環境まつり」への出展など、こちら課題山積です。



「相互内部監査」

「相互内部環境監査」意向調査の結果、現時点でISO14001認証取得済み21事業所のうち14事業所が相互内部監査に参加。10月頃からの内部監査が多いので21事業所全てが参加できるよう日程調整し、研究会全体のものにしていくつもりです。

事業所代表者全体会参加の全ての事業所から現在の取組等について情報交換を行いました。環境会計も大きな課題、ゼロエミに挑戦し、エネルギー使用量の削減を徹底しながらも、この異常に暑い夏を乗り切ろうとしています。職員のモラル向上に苦労してる事業所も多い中、どうせやるなら楽しもうと、その企業らしさを追求し、独自のISOの取組を楽しんでいる事業所も見受けられます。次回の事業所見学会(実務者全体報告会)は、9/27(金)15:00~飯田TDKにおいて行われます。それまでに3つの分科会がどのように取組を進めていくか、南信州の山間の谷で暑い夏が続きます。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之 p05300@tamagawa-seiki.co.jp

小林敏昭 kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp

「ひろめる」「さくげん」「いれむす」分科会

地域ぐるみ環境 ISO 研究会の新しく 3 つに編成され直された分科会の会合が開かれました。「ひろめる分科会」6/26、「さくげん分科会」7/1、「いれむす分科会」7/3。「いれむす分科会」では、「南信州いれむす 21」の仕組みそのものや取組宣言事業所への支援方法について検討されました。各事業所の現状を知るアンケートの実施は / その結果を基に事業所の活動が継続できるような支援は / 規模別など事業所にとって取り組み易い方法は / 審査を行う側のレベル合わせの勉強会は / 審査基準の統一は / 企業にとって地域的にいれむすの存在がより広く認められるようなメリット(魅力)は / 社会的必要性(いれむすの魅力)が高まるのに応じた加入は / 効率的な事業所訪問は / 何段階かの勉強会や説明会で登録審査に到達できるような仕組みは、など昨年 10 月スタートした地域独自の環境マネジメントシステム、「南信州いれむす 21」のいろいろな課題が見え始めてきました。次回の分科会は「ひろめる」7/25、「さくげん」「いれむす」8/2、8/9 の「研究会事業所代表者全体会」に向け、それぞれ研究を進めていきます。



信州環境フェア2002

長野県・県経営者協会・県環境保全協会等で作る実行委員会が主催する「信州環境フェア 2002～行動元年～みんなの力で地球温暖化を防ごう！」が長野市ビッグハットで 7 月 26 日(金) 13:00～18:00、27 日(土) 10:00～16:00 に開催され、当研究会も昨年に引き続き出展します。搬入・設営・搬出と 2 日間で延 20 人程がグリーン・ネイチャーエリアの我がブースを担当します。このフェアの県広報番組が 7 月 20 日(土) 11:45～12:00 テレビ信州で放映されます。急ぎよ編集でカットされない限り、前回の研究会の実務者全体報告会の様子等が流れます。さて出展の準備が大変です。

<http://www.pref.nagano.jp/seikan/kankyuu/fair/fair.htm>

研究会「相互内部監査」の取り組み

昨年 10～11 月、飯田市役所での内部監査へ研究会 6 事業所延 7 人参加があり、アース・グリーン・マジックへの内部監査へ市役所からも参加した相互内部監査を今年ももう少し広く実施することになり、「ひろめる分科会」が事業所に意向調査を行いました。7 月に神稲建設が新

しくメンバーとなり研究会は全 28 事業所になりましたが、現時点での相互内部監査への参加は、ISO14001 認証取得済み 21 事業所のうち 12 事業所。内部監査に出向・受入の「相互」が多摩川精機・平和時計製作所・飯田 TDK・飯田市役所の 4 事業所、出向のみが 8 事業所。飯田市役所は、県内の認証取得済みの自治体とも相互内部監査を進め、7/24、上田市役所の事務局の内部監査に参加します。

「南信州いれむす 21」の説明会

「いれむす分科会」でも、「南信州いれむす 21」の PR の必要性が検討されていましたが、「南信州いれむす 21」や研究会活動を含めたこの地域での環境改善の取組の説明会が開かれました。7/11 飯田商工会館で「飯伊経営指導員協議会研修会」で飯田商工会議所や下伊那の町村の商工会の経営指導員の皆さんに対して、ISO14001 と「南信州いれむす 21」を説明しました。また、飯田商工会議所は、会員への相談業務や支援のため ISO14001 認証取得の準備を現在進めている段階です。

7/16 には飯田工業高校(保高勝通校長)で生徒会役員の生徒 25 人に、環境問題から「南信州いれむす 21」まで説明しました。生徒会では、「南信州いれむす 21」への取組を手始めに ISO14001 への挑戦を進めています。

「南信州いれむす 21」取組の拡がりに合わせて、研究会としても「いれむす分科会」を中心に、システムの見直しとレベルアップが求められます。



飯田工業高校保高校長が趣旨を説明

夏季の省エネルギー対策

暑い夏、私たちの長野県では、田中康夫(前)知事の不信任が議決、失職、9/1 知事選挙となりました。内閣府国民生活局から「夏季の省エネルギーについて」が出ています。その「家庭・オフィスにおいて心がけていただきたい省エネルギー活動」では、「冷房中の室温は 28 を下回らない設定を」「1 日 1 時間のテレビの使用を控えましょう」「給湯温度の設定を 5 低く」など 18 の省エネの提案がされています。暑い夏だからこそ...

<http://www5.cao.go.jp/seikatsu/index.html>

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之 p05300@tamagawa-seiki.co.jp

小林敏昭 kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp

6/18 研究会実務者全体報告会



地域ぐるみ環境 ISO 研究会の実務者全体報告会が株マルヒで開かれました。会議に先立ち研究会メンバーで環境産業公園内にあるエコトピア飯田(株) (株)アース・グリーン・マネジメントを見学。環境産業公園は、飯田市エコタウンプラン、天竜峡エコバレープロジェクトに基づきリサイクル関連研究開発型企業の創造・育成と環境学習をめざす空間です。エコトピア飯田(株)は、新聞古紙をセルロースファイバーという建築用断熱吸音材にリサイクル、(株)アース・グリーン・マネジメントは、ペットボトルを繊維やシートのもとになるペレットにリサイクル。2社の製品は、飯田市環境配慮型製品「ぐりいいんだ」にも認定されています。

「南信州いいむす21」の取り組み

飯田下伊那地域で展開している独自の環境マネジメントシステム「南信州いいむす 21」。飯田青年会議所のメンバーを中心に昨年末 30 を超える事業所が取組宣言をしましたが、登録は未だに 4 事業所のみ。登録審査申請書が提出されている事業所や提出はないものの環境改善の取り組みが進んでいる事業所もあり、研究会として支援等フォローが必要です。

会議会場の株マルヒが理事長を務める多摩川精機協同組合は、既に ISO14001 認証取得済みの会員を除く全 23 事業所が「南信州いいむす 21」に取り組むことを決定しました。さらに信南サービス(株)が取組宣言を提出、飯田工業高校も取り組みを検討するなどこれまでの説明会等の成果が徐々に現れ始めています。

また、飯田市役所は ISO14001 の自己適合宣言を決定しましたが、来年 1 月までの有効期限内にその準備を進めることとなります。飯田市役所が「南信州いいむす 21」の「自己適合レベル」案を構築し、案を受け研究会としてシステム全体の検討をしていくことになりました。

研究会には現在、オムロン飯田に 1 人、木下建設に 1 人、飯田市役所に 2 人の審査員補がいますが、研究会活動のレベルアップ、そして対外的な信頼性を高めるため、増員できる体制や仕組みが求められます。

「さくげん」「いいむす」「ひろめる」分科会

希望による 5 分科会から 3 分科会への所属変えで、分科会毎に、リーダー・サブリーダー・レポーター、第 1 回目の分科会開催日程を決めました。なお、事務局長は分科会に属さず全体の調整を行います。

	さくげん分科会	いいむす分科会	ひろめる分科会
リーダー	飯田TDK	中部電力	飯田信金
サブリーダー	吉川建設	木下建設	旭松食品
レポーター	コピア飯田	ダイグループ	飯田市役所
分科会期日	7 / 1	7 / 3	6 / 23

さくげん分科会 15事業所

温室効果ガスや廃棄物といった環境負荷物質の削減やリサイクルについて、分科会で情報交換をしながら、実務者全体に話題を提供する。共通項目について、研究会全体で取り組めるような活動が生まれてくることを期待します。エコトピア飯田(株)からの提案で新聞古紙のリサイクルも。

いいむす分科会 7事業所

「南信州いいむす21」の普及、支援、登録審査の振り分け、仕組みの改善を担当する分科会です。

ひろめる分科会 4事業所

環境関連の教育、啓蒙、啓発を目指す分科会です。勉強会の開催、ぐるみ通信の発行、各事業所固有の取り組みの水平展開、展示会参加、相互内部監査の調整、悩み事相談等々の活動。信州環境フェア 2002 も。

今年も研究会内で「相互内部監査」を実施

昨年は、飯田市役所の ISO 内部監査に延べ 7 人の研究会メンバーが参加し、システムや運用上の改善点を指摘しました。(株)アース・グリーン・マネジメントの内部監査にも研究会が参加。今年は、その相互内部監査を拡充していくことになりました。6 / 17 に飯田市で開かれた「長野県環境 ISO 自治体ネットワーク」で長野県・長野市・上田市・飯田市・伊那市・須坂市・丸子町・上山田町の当面 8 自治体が参加し相互内部監査を 7 月の上田市からスタートさせることになりました。飯田市役所は、研究会の民間企業、そして県内の自治体の参加を受け内部監査を実施することになります。ISO14001 の自己適合宣言を担保する意味からも内部監査の充実は大きな意味を持ちます。

事業所代表者全体会を 8 月下旬に、次回事業所見学会・実務者会を 9 月に飯田TDKで(株)開催。研究会の最新の内容をお届けできるよう現在ホームページの全面改訂作業中です。古い内容で、ご迷惑をおかけしていますが、もう少しお待ちください。

【ご意見、お問合せ】 【配信解除】

沢柳俊之 p05300@tamagawa-seiki.co.jp

小林敏昭 kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp

6/5は「環境の日」、6月は環境月間

6月5日は環境の日です。これは、1972年6月5日からストックホルムで開催された「国連人間環境会議」を記念して定められたものです。国連では、日本の提案を受けて6月5日を「世界環境デー」と定めており、日本では環境基本法(平成5年)が「環境の日」を定めています。

環境基本法は、事業者及び国民の間に広く環境の保全についての関心と理解を深めるとともに、積極的に環境の保全に関する活動を行う意欲を高めるという「環境の日」の趣旨を明らかにし、国、地方公共団体等において、この趣旨にふさわしい各種の行事等を実施することとしています。

(環境省ホームページ <http://www.env.go.jp/guide/envdm/index.html>)

「環境の日」の前日の昨日6月4日も歴史的な日となりました。サッカーワールドカップの共同開催国日本の初戦での勝ち点1もそうですが...

「京都議定書」を批准

本日の閣議において、「気候変動に関する国際連合枠組条約の京都議定書」を受諾することを決定しました。政府としては、4日(現地時間)に国連事務総長宛に受諾書を寄託する予定であり、これによって我が国は京都議定書の締約国となります。

我が国は、1997年の京都会議の議長国としてこれまで京都議定書の2002年発効を目指して国際交渉に積極的に参加し、地球温暖化防止のための合意形成に努めてきました。京都議定書は、気候変動に対する国際的取り組み強化の極めて重要な第一歩です。各国においても京都議定書を早期に締結し、議定書が速やかに発効することを強く希望します。

我が国にとって、京都議定書の削減約束を達成していくことは決して容易なことではなく、国、地方公共団体、事業者、国民が一体となり、総力を挙げて取り組むことが必要です。政府としては、去る3月19日、「地球温暖化対策推進大綱」を決定したところであり、今後、京都議定書の約束達成への取り組みが経済活性化や雇用創出にもつながるよう技術革新や経済界の創意工夫を活かし、環境と経済の両立に資する仕組みの整備・構築を図っていきます。国民の皆様の御理解と具体的な行動をお願いします。

地球温暖化対策の実効性を確保するためには、全ての国が温室効果ガスの削減に努めることが必須です。我が国としては、今後、米国や途上国も含む全ての国が参加する共通のルールが構築されるよう、最大限の努力を傾けていきます。地球温暖化防止のために、各国が我が国とともに建設的に交渉に臨むことを強く希望します。

(<http://www.kantei.go.jp/jp/koizumispeech/2002/06/04danwa.html>)

官邸ホームページ 内閣総理大臣の談話)

国の批准を受けて、国・自治体・事業者・市民の各層が具体的な取り組みを進めていくこととなりますが、飯田市も各種データを基に、「温暖化防止アクションプラン」を策定中で、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの削減数値目標を今年度中には公表する予定です。

「千葉商科大学」で講義

当研究会の活動・南信州いいむす21について

6月4日千葉商科大学(千葉県市川市・加藤寛学長)政策情報学部の授業で「地域ぐるみ環境ISO研究会」「南信州いいむす21」など当地方での取り組みについての90分の講義を行いました。地域ぐるみ環境ISO研究会と飯田市が今年受賞しました「第7回計画賞」を主催する日本計画行政学会の会長が千葉商科大学政策情報学部の熊田禎宣教授で、この講義の機会を戴きました。市川の市街地の中を流れる真間川を再生するため、熊田教授たちは、地域ぐるみで環境活動をするグループ(エコネット・てこな)を立ち上げる準備を進めており、当研究会をひとつのモデルにということでした。自動車や洋服のCMにも登場する緑豊かなきれいなキャンパスで、研究会と大学との不思議な「関係」や「意味」や「物語」を感じてきました。講義の締めにも使わせていただいた田坂広志さんの言葉です。

「コンステレーション」を感じる力

都会を離れ、大自然の中で夜空を見上げます。そこには、無数の星が瞬いています。そして、それらの無数の星の中で、ひときわ輝いて見える星々が、美しい「星座」を形づくっています。例えば、冬の空に輝く「オリオン座」。夏の夜に輝く「さそり座」。子供の頃、星座盤を使って学んだ様々な「星座」。それらの「星座」には、それぞれに興味深い「物語」があります。例えば、「さそり座」が東の空に昇ってくる夏の季節が近づくと、「オリオン座」は、逃げるようにして、西の地平線に消えていく。それは、ギリシア神話の巨人オリオンが、さそりの毒で命を落とした物語です。しかし、この「星座」とは、不思議なものです。なぜなら、その「星座」を形成している星々は、実は、何十光年、何百光年も離れた場所にある恒星であり、互いに何の関係もない星々だからです。しかし、夜空に、こうした「星座」を見ることが、我々の夜のひとときを、味わい深いものにしてくれます。そして、それは、夜空だけではなく、一見、何の関係も無い物事の中に、何かの「関係」を見出し、確かな「意味」を感じとり、大切な「物語」を読みとる。そのことが、我々の生を、味わい深いものにしてくれるようです。人生の様々な出来事の中から、「関係」や「意味」や「物語」を紡ぎだす力。それが、心理学の分野で言われる、「布置」を感じる力です。そして、この「星座」と「布置」。いずれも、英語で「コンステレーション」と呼ばれるものなのです。(http://www.hiroshitasaka.jp/home/index.html 田坂さんのホームページ)

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之 p05300@tamagawa-seiki.co.jp

小林敏昭 kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp

飯田市役所が ISO自己適合宣言を

本日行われました飯田市役所の定例記者会見で田中秀典飯田市長から「飯田市役所の ISO14001 自己適合宣言」について発表がありました。研究会のメンバーである飯田市役所は、システムが規格に適合していることを外部機関の審査によらず、自らの責任において、自己決定し自己宣言することとしました。田中市長の記者会見での挨拶は次のとおりです。



飯田市役所の ISO14001 取得は、長野県内の自治体では初めて、平成 12 年 1 月 26 日付けで認証を受け、以後、システムの継続的な改善を行い、今日まで取り組みをしてきました。3 年間の登録有効期限を平成 15 年 1 月 25 日に迎えることとなりますが、外部の審査機関による更新審査を受けず、審査登録を継続しないこととし、自らの責任において、自己決定し自己宣言をすることにしました。飯田市におけるまちづくりや市政の推進は、「むとす(=んとす、広辞苑の最末尾の語)」の精神。自分たちのまちは、自分たちで作ろうとすることが原点となっています。ISO14001 認証取得後の取り組みも、この「むとす」の考え方で展開し、市役所出先機関での簡易な取り組み「いいむす 21」や地域ぐるみでの「南信州いいむす 21(EMS21)」といった国際標準ではない独自のマネジメントシステムを構築し、運用する取り組みをしてきました。一方で、「環境自治体会議」をはじめ様々な会議に参加し、自らの取り組みを検証し、地元民間企業との連携も進めてきました。

こうした地域と連携した飯田市の取り組みは、様々な機関から数々の賞を受賞し、客観的に高い評価を受けてきました。また、システム運用にあたり「地域ぐるみ環境 ISO 研究会」の会員の参加を得て、緊張感ある内部監査を実施しており、その成果も着実に上がっています。さらに、システム構築以来マニュアルの改正を 9 回行い、職員への教育訓練を重ねてきています。

このような取り組みの状況を踏まえ検討した結果、自己適合宣言の機が熟したものと判断をし、自己宣言を行うこととしましたので、本日発表するものです。自己適合宣言を行います。今後も「地域ぐるみ環境 ISO 研究会」をはじめ、地域民間企業との連携を一層大切に、今まで以上に自らに厳しく、環境マネジメントシステムの充実を図っていきたくと考えています。

南信州いいむす 21 の普及・拡大に

1996 年 9 月に国際標準化機構 (ISO) が定めた企業や団体等の環境マネジメントシステムの国際基準である ISO14001 規格には、運用している環境マネジメントシステムが規格に適合していることを他者に対し実証する方法として「外部組織による審査登録」と「規格との適合を自己決定し自己宣言する」ことが規定されています。

飯田市役所は、外部の審査機関による審査登録ではない自己適合宣言を選択し、今まで以上に地域での「南信州いいむす 21」をはじめとする環境マネジメントシステムの普及・展開をめざしていくこととなります。

飯田市役所は、これまで研究会の仲間とともに自己適合宣言への体制づくり・仕組みづくりへの取り組みを進めてきました。そして組織内での 1 年間の検討の結果、飯田市役所における自己適合宣言の機が熟した、そして、この地域での様々な展開が自己適合宣言のひとつのモデルとなり得ると判断したわけです。

南信州いいむす 21 のシステムも

現在「基礎的なレベル」だけしかない「南信州いいむす 21」に「自己宣言レベル」のシステムを構築し、「自己決定」「自己宣言」と併せて、広域連合長から「登録証」を受けていけば、説明責任の点からも「自己適合宣言」がより分かりやすいものになると考えます。

例えば「環境側面」など難解な用語や規格どおりのマニュアルの表現等を改め、利害関係者や住民に「自己宣言」の意義を分かりやすく説明し、分かりやすく開かれたシステムも自己適合宣言には必要になってきます。研究会と一緒に自己適合宣言に挑戦していきます。

5 月 11 日、多摩川精機株式会社の会議室における多摩川精機協会の席上で、協力工場の社長と環境担当者 30 社(約 40 人)を対象に研究会の沢柳事務局長が「南信州いいむす 21」の説明を 1 時間行いました。5 月 21 日には飯沼地区事業所環境保全対策協議会の総会に引き続き研修会で研究会事務局の市役所小林係長が「南信州いいむす 21」の説明を行いました。まだまだ、拡がりが必要な「南信州いいむす 21」、飯田信用金庫の ISO セミナーなど、PR の取り組みが求められています。

(株)原鉄が加わり研究会 27 事業所に

今年 5 月 13 日環境 ISO を認証取得した(株)原鉄が「いいむす分科会」で「南信州いいむす 21」をこの地域に展開したいと研究会に加わりました。ボランティアな研究会にとっては、新しい仲間が大きな力となります。

【ご意見、お問合せ】、【配信解除】

沢柳俊之 p05300@tamagawa-seiki.co.jp

小林敏昭 kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp

飯田しんきんISOセミナー

5月2日(木)14:00～17:00 飯田信用金庫本店4階会議室で飯田信用金庫ISOセミナーが開かれました。参加費無料ということもあり、連休の真っ只中にも関わらず広い会場いっぱい約90人の受講者。ISOに対する関心の高さや飯田信金の底力に驚かされました。信金の池田専務理事から開会の挨拶。「企業の手伝いをしたいという考えの一環での開催。時代は、量から質、質から感性へ。ビジネスの中心は、シルバーそして環境。環境配慮の戦略が企業内に求められている。ISOへの取り組みは時代の変化を敏感に察知するという意味も。」

講師は、信金の会計監査も行い、公認会計士でもあるトーマツ環境品質研究所甲信越支店長、星野雄滋さん。講師からのISOに関する知識の質問に、ISO認証取得済みとして数人が、全く知識がないとして10人程度が挙手しました。2000年版ISO9001の概要、ISO14001の概要について説明がありました。画面コピーの厚い資料として配布され、どちらも1時間強でしたが、内容が盛り沢山、時間が足りなかったという感じでした。ISOの説明は時間が短いと理解しにくい、時間が長いと聞く側が疲れ切ってしまうという難しさがあります。



続いて、事業所代表として「地域ぐるみ環境ISO研究会」のメンバーでもある上沼信金総合企画部副部長から飯田信金の環境ISOの取り組み状況とともに「南信州いいむす21」の概要説明がありました。「南信州いいむす21」は、「地域ぐるみ環境ISO研究会」と「南信州広域連合」が連携して進める地域独自の環境マネジメントシステム。環境ISOを補うものです。

飯田信金の取り組みの中から、エネルギーの調査は、量を金額に置き換えたとき理解されやすかった。電気代節減は年4～6百万円、灯油節減は2百万円。水道料の把握により漏水が発見できた。省エネをうたい文句とする機器でも省エネ効果は疑問のものも。全支店・関連会社も対象範囲に入っているため浸透度が課題。土壌汚染された土地の浄化責任の発生からそれを担保する金融機関には今後大きな問題。

今回は本店で行われたISOセミナーでしたが、今後は同様な無料セミナーを支店単位で開催していくとのことです。ご参加、ご利用を。

「環境文化都市」の推進

そして「りんご並木と人形劇のまち」

飯田市は「人も自然も美しく、輝くまち 環境文化都市」を将来の都市像として掲げています。また、「りんご並木と人形劇のまち」としても有名です。そんな話題をいくつか紹介させていただきます。

田中市長が園遊会で天皇陛下と

飯田市の田中市長と夫人が、4月23日赤坂御苑での園遊会に招待されました。天皇陛下をお待ちしていた場所がちょうど最後あたりでしたので、天皇陛下から市長にお言葉があり、「飯田市ではりんご並木がありますね」と声をかけられ、市長から「私が中学の時最初に植えたものです」と答えられ、「また飯田にお越しください」と話されました。また美智子様は市長夫人と話され、「飯田はつむぎが有名ですね」とやさしい口調で話されました。「飯田りんご並木」は、昭和22年市街地の4分の3を焼き尽くす大火の焼け野原に、昭和28年中学生が40本のりんごという希望の木を植え誕生しました。幾多の困難を乗り越え、約4百メートルのりんご並木全体が歩行者優先の大きな公園に生まれ変わっています。「かおり風景100選」にも選ばれたりんご並木は今淡い花から新緑の季節を迎えています。

人形劇フェスタがふるさとイベント大賞の...

飯田市で毎年夏に開かれる国内最大の人形劇の祭典「いいだ人形劇フェスタ」が全国の特色ある地域イベントに贈られる「ふるさとイベント大賞」の「優秀賞」に輝きました。この大賞は、地域活性化センターと全国58新聞社が地域イベントの充実と個性豊かな地域社会の実現を目的に設置して6回目。全国からの154件の応募から大賞1、優秀賞2、部門賞3、特別賞1の7イベントが受賞しました。「いいだ人形劇フェスタ」は、地元根付く人形浄瑠璃など伝統芸能を背景に、1979年の国際児童年に始まりました。海外も含め参加300劇団、上演会場は100を超え、保育園や公民館のほか、りんご並木周辺の路上でも演じられます。

今年の「いいだ人形劇フェスタ2002」は8月1日(木)～4日(日)、ぜひ夏の飯田へもお越しください。

「飯田りんご並木」や「いいだ人形劇フェスタ」は飯田市のホームページをご覧ください。

<http://www.city.iida.nagano.jp/>

【ご意見、お問合せ】、【配信解除】

沢柳俊之 p05300@tamagawa-seiki.co.jp

小林敏昭 kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp

4/17 研究会実務者全体報告会

研究会の実務者全体報告会は、4月17日(水)に化成工業(株)を会場に行われました。化成工業(株)中島社長からフィリピンとタイでの成型・成形・組立等の生産拠点を含めたグループ全体の会社概要について説明、そしてISOをはじめとする環境改善の取り組みについての説明がありました。引き続き、自動車関連部品・OA機器関連部品の生産など事業所内の見学を行いました。



会議では、沢柳事務局長から3月1日の代表者全体会以降の経過報告があり、次のような検討が行われました。

「南信州いいむす21」の今後の進め方

地域独自の環境マネジメントシステム「南信州いいむす21」は、取組宣言書の提出があった35事業所中4事業所に3月14日広域連合長から認定証が公布されています。取り組みが進んでいるのに、審査申請の提出がなく、まだ認定証が公布されていない事業所については、研究会の支援チームが、その後の取り組み状況をフォローしていくことが確認されました。また飯田青年会議所の取り組みとして取組宣言書の提出があった中には、ISO14001の認証への取り組みも並行して行っている事業所もあるので、調整することとなりました。「南信州いいむす21」は、南信州広域連合と研究会が進めているものの、研究会メンバーのボランティアで行うという制約もあります。しかし、地域に受け容れられ普及するよう、よりわかりやすいシステムに改善を図るとともに、研究会メンバーとしてもPRする必要があります。

「さくげん」「いいむす」「ひろめる」の3分科会に

組織の拡大と取り巻く環境の変化に対応するため「地域ぐるみでISOへ挑戦しよう研究会」から「地域ぐるみ環境ISO研究会」へ変わった時点から、5つの分科会を活動の中心に位置づけてきました。「ISO14001挑戦」「ISO14001支援」「環境改善啓蒙」「飯田版ISO構築」「飯田版ISO挑戦」の5つの分科会は、「南信州いいむす21」がスタートした現在、様々な課題は

ありますが、次の3つの新たな分科会に組織替えして活動していくことになりました。その3つは、大きな課題別に「さくげん」「いいむす」「ひろめる」分科会です。

「さくげん分科会」は、温室効果ガスや廃棄物削減を狙いとした分科会で、例えば、蛍光灯・廃プラ・紙のリサイクルや集団回収を進めていきます。

「いいむす分科会」は、文字どおり「南信州いいむす21」の普及・登録審査を担当する分科会です。

「ひろめる分科会」は、環境に関連する教育・普及・啓蒙を狙いとする分科会で、例えば、勉強会の開催、ぐるみ通信の発行、各事業所での活動の水平展開、展示会への参加を担当していきます。

分科会では、メンバーが情報交換をしながら、その中で研究会に共通な事柄を取り上げ、2か月に1回程度、事業所見学会を兼ねた実務者全体報告会を開催し、分科会で話題となった内容を全体で検討していくことになりました。分科会の構成メンバーは、後日、アンケートで希望を募り、調整し決定していきます。

次回は6月中旬「環境産業公園」で

「信州環境フェア」等他の団体が行う各種のイベントへの参加だけでなく、楽しく、継続してできる研究会独自のイベントを通じて、環境問題の啓蒙を目指していくことにもなりました。メンバーにとって余り無理にならないよう、各事業所で行っているユニークな取り組みで全体で展開できるものを検討していくことになりました。(「ひろめる分科会」の担当?)

会議では、廃棄される蛍光灯の数量、廃棄方法、処理単価について各事業所から報告を受けました。蛍光灯の総廃棄量は4,000本(約1,200kg)/年間、廃棄方法は埋立・リサイクル・保管等様々、処分業者も数社、処理単価も様々。地元での蛍光灯のリサイクル施設の立ち上げ等という情報もありました。(「さくげん分科会」の担当?)

ISOセミナーのご案内

日時：5月2日(木)14:00~17:00
会場：飯田信用金庫本店
講師：トーマツ環境品質研究所長野支店長
星野雄滋 氏

費用：無料

内容：2000年度版ISO9001の特徴と解説
ISO14001の解説
「南信州いいむす21」概要説明
法規制の状況と今後の見通し
ISO認証を取り巻く外部環境

参加申込は、飯田信用金庫(0265-22-4321)まで

【ご意見、お問合せ】、【配信解除】

沢柳俊之 p05300@tamagawa-seiki.co.jp

小林敏昭 kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp

南信州地域環境マネジメントシステム(EMS:いいむす)

「南信州いいむす21」登録証交付!!



昨年10月1日にスタートしました南信州地域独自の環境マネジメントシステム「南信州いいむす21」。スタートの日、「取組宣言書」の提出をいただいた4事業所への「登録証」の交付式が3月14日、県飯田合同庁舎で行われました。

4事業所からの「審査申込書」を受け「地域ぐるみ環境ISO研究会」参加事業所の担当者による現地審査でそれぞれの環境改善の取り組みが確認されましたので、「登録推薦書」を「南信州広域連合」に出してありました。3月14日、構成市町村長による南信州広域連合会議において、研究会からの推薦と事業所所在市町村による「資格審査結果報告書」とを合わせ登録判定を行い、了承され、「登録証」の発行となりました。

南信州広域連合会議の終了後、町村長たちが見守る中、田中秀典南信州広域連合長(飯田市長)から4事業所にそれぞれ「登録証」が交付されました。「登録証」には「住む人も訪れる人も心安らぐ日本のふるさと」「ふるさと南信州交流文化圏」の創造を目指し、人が育つ「循環共生型社会」の構築の推進を図るため、環境に配慮した事業活動を行う「南信州いいむす21」の登録事業所であることを証します。」と書かれてありました。有効期限は、2005年3月13日、3年間です。

田中広域連合長から、「私たちが進める環境に対する認識を深める活動への積極的な参加とご協力に感謝する」「今まさに環境の世紀、この取り組みが企業の繁栄につながるものとなると確信する」「最初の4事業所、当地域のモデル企業として各社の発展を祈念する」と4事業所への協力に感謝の言葉がありました。

「南信州いいむす21」登録事業所は、次のとおり。
 (株)アジマ自動車学校 喬木村1353(サービス業)
 エコトピア飯田(株) 飯田市上郷黒田366-1(製造業)
 (株)はたの 飯田市松尾明5204(卸売・小売業)
 井坪設備工業(有) 飯田市上郷別府2465(建設業)

制度構築・開始から「登録証」の発行まで何とか、たどり着きましたが、まだまだ始まったばかりのシステムです。これまでもそうでしたが運用が本格的になればなるほどシステムの問題点や課題が出てくるものです。この活動が周知され注目され、取り組み事業所も増えれば、研究会や広域事務局の対応も大変になってくることは必至です。飯田青年会議所や多摩川精機協同組合など、まとまって「南信州いいむす21」に取り組む動きが出始めました。広域連合の全施設での取り組み準備も進んでいるようです。

この「南信州いいむす21」は、ノウハウを持った研究会参加事業所のあくまでボランティアな支援によるところが大きいシステムです。それゆえ、運用するシステム全体が無理なく、自発的に取り組む事業所の中で可能な限り完結できることが望まれます。ISO14001の基本であるPDCA(Plan-Do-Check-Action)、システムの継続的改善により常に見直していききたいものです。

4事業所は、業種も違い特色あるユニークな環境改善活動もしていますが、ごくごく当たり前の活動を、地道に事業所全体で展開しています。何より、環境に対する熱い思いを持って無理せずに取り組んでいます。今回の「登録証」の交付が4事業所にとって、新たな環境改善活動のスタートとなってくれれば、そして、この活動の輪が地域に広がり、研究会の目指す点から面への大きな契機となってくれればと願います。



「南信州いいむす21」登録証を交付された4事業所。
 左から、(株)アジマ自動車学校、エコトピア飯田(株)、(株)はたの、井坪設備工業(有)の代表者です。

飯田市役所のホームページにある研究会のコーナーに「南信州いいむす21」関連情報が載っています。こちらはまだまだ不十分で、徐々に整備していますが、参考にどうぞ。また広域のホームページにも情報があります。

<http://www.city.iida.nagano.jp/kankyo/kennkyuu/iidaban/main.htm>

【ご意見、お問合せ】、【配信解除】

沢柳俊之 p05300@tamagawa-seiki.co.jp

小林敏昭 kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp

飯田市環境配慮型製品認定制度

「ぐりいいんだ」第1回認定式



私たち研究会のメンバーであるエコトピア飯田(株)と(株)アース・グリーン・マネジメントの製品が飯田市環境配慮型製品認定制度における飯田市環境配慮型製品「ぐりいいんだ」として認定されました。

2月14日にスタートしたこの制度、第1回の認定に当たり、3月12日に飯田市役所で田中秀典市長から「支援承諾書」が4事業所に交付されました。



エコトピア飯田(株)の製品は、「エコファイバー」(断熱材)、地域回収の新聞古紙を原料とし、断熱材として加工した製品。(株)アース・グリーン・マネジメントの製品は、「PETボトル再生ペレット」、地域の使用済みPETボトルを洗浄、粉碎、溶融しペレット化したものです。

もう2つの製品は、ナピック・ジャパン(株)の「ライトアップ」(蛍光灯反射板)、工具不要で装着可能な直管型蛍光管用反射板、ハード技研工業(株)の「バイオメント」(藻の生えるコンクリート)、セメント製品に炭素繊維を含有させた植物生育用炭化物含有セメント製品です。

「ぐりいいんだ」とは(「グリーン」「いいんだ」)

- ・飯田市環境配慮型製品「ぐりいいんだ」は、飯田市内の事業者等が開発、製造した環境配慮型製品の販売を支援するため、飯田市が独自に認定するものです。
- ・認定を受けた事業者は、その商品やチラシ等に「環境文化都市・飯田の認定品」であることを掲載することができます。また、「ぐりいいんだ」の名称やシンボルマークを使って製品をPRすることができます。
- ・飯田市は、各種展示会や広報活動を通して認定品の

PRを行います。また、飯田市の公共事業等において認定品を積極的に活用します。

認定の対象

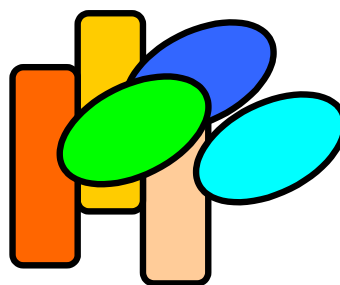
- ・飯田市内の事業者等が開発又は製造した「環境配慮型製品」
- ・環境配慮型製品とは.....
製造過程又は使用することによって環境への負荷を低減できる製品。例えば廃棄物の削減、再利用。二酸化炭素の削減。水質の保全など。
- ・つぎのいずれかに該当する製品
ア 製造過程において、廃棄物の再利用又は削減、二酸化炭素の発生の抑制、水質の保全等を行うことにより自然環境の保全が促進される製品
イ 使用することによって二酸化炭素の発生の抑制、水質の保全等自然環境の保全が促進される製品
ウ ア及びイに規定するもののほか、製造過程において又は使用することによって環境への負荷(環境基本法(平成5年法律第91号)第2条第1項に規定する環境への負荷をいう。)の低減に資すると認められる製品

認定の方法

- ・別紙申込書により、飯田市工業課及び環境保全課で申込みを受け付けます。
- ・募集は随時行い、その都度審査及び認定を行います。(平成14年度末まで)
- ・審査の結果、環境配慮型製品であると認められたときは、支援承諾書を交付します。

その他

- ・飯田市が支援を行う期間は5年間です。
- ・別紙申込書により、飯田市工業課及び環境保全課で申込みを受け付けます。
- ・お問い合わせは、飯田市工業課 TEL 0265-22-5644



シンボルマーク
小文字の「r」を3つ組み合わせ、循環型社会が目指す「3R」
「reduce」「reuse」「recycle」を意味。

3本の若木は市民・企業・行政を、
3枚の若葉は山(森)・空(空気)・川(水)を意味します。

【ご意見、お問合せ】、【配信解除】

沢柳俊之 p05300@tamagawa-seiki.co.jp

小林敏昭 kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp

3/1 研究会事業所代表者全体会



研究会の事業所代表者全体会が3月1日、市役所301・302会議室で行われました。この会議は、研究会全体の方向付けを事業所代表者が決定し確認し合うというもので、年に2回程度開催されることになっています。「南信州いむす21」をはじめ、研究会の事業が大きく動き出していますので、頻度が多くなっています。実際の活動は実務者が行うものの、事業所トップがこの研究会活動をきちんと位置づけることが大切になっています。

新たに「吉川建設株」「木下建設株」がメンバーに

1月に吉川建設株、2月に木下建設株が新しく研究会のメンバーとなり、紹介がありました。いずれも昨年春、ISO14001の認証取得済みで、この地域の建設業の環境改善活動に大きな影響を及ぼす事業所だけに研究会活動を通じた今後の地域への支援が期待されます。自発的な参加により研究会もこれで事業所数で26事業所、ISO14001認証取得済み事業所も多摩川精機協同組合の1月認証が決まり、18事業所となりました。

「計画賞最優秀賞」受賞のプレゼンテーション

前号で私たちの計画「南信州いむす21の展開を地域ぐるみで」が日本計画行政学会主催の第7回「計画賞」最優秀賞受賞の報告を行いました。幕張メッセでの最終審査会のプレゼンテーションを萩本代表が会議で再現し、あらためて全体で受賞の喜びを共有しました。

研究会全体の「二酸化炭素排出量」の報告

研究会のうち23事業所の集計結果が発表されました。業種や規模の違いもあり、従業員1人当たりのCO₂も804kg～47,616kgとずいぶん差があります。全体では、42トンのCO₂排出、今後、研究会全体として取り組むべき課題、全体がまとまると取り組むことができる課題についても、地域への支援と同様、進めていきます。

「南信州いむす21」の今後の進め方

1999年5月飯田版環境ISOの提案、同9月からの試行開始、2000年9月からの飯田版環境ISO挑戦分科会・支援分科会のスタート、2001年4月から広域連合との調整を始

め、10月から始まった「南信州いむす21」。

スタートして5か月が経過し、35事業所から「南信州いむす21」取組宣言書が提出されています。10月1日に提出のあった4事業所の登録証発行への対応をはじめ、今後の進め方について、2月26日の事務局会議での議論を踏まえ、検討されました。今までなかった「登録の基準」について、次のとおり決まりました。

現状把握がされているか？

様式A(二酸化炭素排出量の把握表)が3か月以上記載されていること。

取組み宣言が掲示されているか？

取組宣言(登録証をアレンジしたA3サイズの書式)に「事業所名」「環境方針・取組目標」「取組宣言日」「代表者名」を記して事務所内に掲げていること。

取組みが全員に周知されているか？

「南信州いむす21」という言葉と自分が何をすべきかがわかっていること。

実際の改善の行動がされているか？

少なくとも何らかの環境改善活動が実際に行われていること。

現在までに取組宣言書の提出があった35事業所の登録審査については、1月に訪問・実地指導を担当した訪問支援チーム(研究会各3事業所からなる8チーム)が責任を持って関わる。今後は、取組宣言書の提出を受けるたびに、ISO14001の認証取得済みの研究会事業所が順番で2事業ずつペアを組んで、支援・登録審査を担当していく。「南信州いむす21」に係る費用は、ステッカー代(実費)のみとし、その他は、研究会メンバーのボランティアで行う。これらが、確認されました。

各種イベントにも積極的に参加していく

「信州環境フェア2002」が7月26日・27日長野市のビッグハットで開催されますが、研究会の活動を、この地域をPRする場として、昨年に引き続き参加していくことになりました。また、飯田市の「生活と環境まつり」は、会場を県体育館に移して、10月19日・20日に行われます。

研究会が優秀賞を受賞した中部の未来創造大賞の第2回大賞は、「清水港・みなと色彩計画による景観形成」。10年間に及ぶ官学民が一体となった色彩計画の提案・指導の結果、自然環境と人工構造物の色彩が調和し、美しい清水港に変貌しつつあるといえます。研究会活動を通じて、私たちのまちも、環境のみならず、まち全体の景観が環境に配慮したものになるようにしたいものです。

タイムリーな発信は難しいですね。遅くなりましたこととお詫びいたします。【ご意見、お問合せ】

沢柳俊之 p05300@tamagawa-seiki.co.jp

小林敏昭 kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp

第7回「計画賞」最優秀賞を受賞

「南信州いいむす21の展開を地域ぐるみで」



1月31日、日本計画行政学会主催の第7回「計画賞」の最終審査会が幕張メッセ国際会議場303会議室で行われ、飯田市と地域ぐるみ環境ISO研究会の連名で応募していた計画「南信州いいむす21の展開を地域ぐるみで」が唯一の最優秀賞を受賞しました。

主催の日本計画行政学会は、学際的な研究分野をもち、産官学のそれぞれの分野から会員が参加する我が国では数少ない理論と実務の両面を研究する学会です。1995年から創設された「計画賞」は、現実に実施に移されることを前提となっている計画の事前事後の評価を踏まえ、優れた計画を選び出し、その計画に貢献した人々を表彰するものです。そして、計画賞の存在が計画担当者を互いに触発し、優れた政策形成と計画の策定、実施、評価が実現することに寄与することを期待するものです。

「計画賞」の共催はUNU-UNEP(国際連合大学-国連環境計画)、後援は全国知事会・全国市長会・全国町村会・(財)地域活性化センター・(社)経済団体連合会・日本商工会議所・日本放送協会・日本経済新聞社・日本工業新聞社。

10月に応募申請した内容は、指定された計画の概要・計画の特徴・優れている点・計画の問題点及び改善の方策・応募者の計画への関わり・主張を確認する方法、A4で8枚。今年の応募数18件は、学会員40人による予備審査において「計画の社会的意義」「計画のプロセスや組織」といった評価基準で5段階評価とともに「受賞に値する計画である」かどうかという総合的な判断を受け、10計画が1月31日の最終審査へ進みました。

私達の計画以外の9計画は、次のとおりです。

「大きな町の小さな改革者たち」盛岡市立北松園中学校
 「みたか市民プラン21を反映した三鷹市基本構想・第3次基本計画の策定」みたか市民プラン21会議・三鷹市
 「横須賀方式による行政評価システム」横須賀市
 「上越市における子育て支援と人づくりの取組み」上越市
 「21世紀ひょうご長期ビジョン」兵庫県
 「川崎市子どもの権利に関する条例の策定計画」川崎市

「イタド・シティ・プロジェクト」中国山地県境市町村連絡協議会
 「襟裳岬に春を呼べ! えりも岬緑化への挑戦」えりも町
 「もみの木広場」みま保存会」グランドワーク坂戸実行委員会

最終審査は、予備審査通過者による公開プレゼンテーションを行い、直ちに別室で最終審査会を開き、学会員による会場投票、事前のオンライン投票の結果を加味した上で賞を決定するというものでした。最終審査員の17人のうち11人が出席しましたが、その顔ぶれだけでもこの賞の凄さがわかります。学会会長の熊田禎宣(千葉商科大学教授)大久保昌一(大阪大学名誉教授)柏崎利之輔(早稲田大学名誉教授)斎田一路(共同通信社社長)鈴木直道(日本立地センター理事長)林雄二郎(日本NPO学会会長)伴囊(都市基盤整備公団総裁)前田耕一(時事通信社相談役)溝口敏行(郵政研究所所長)吉田弘正(地域活性化センター理事長)川野(月刊地球環境)(敬称略)

それぞれ10分間プレゼンテーションに引き続き最終審査員からの5分間の質疑応答があり、経過9分、10分、15分にベルが3回鳴りました。審査員からの質疑は、申請書類をじっくり読んである、実に的確で厳しいものでした。「計画を別の自治体の名前にしても通用するのでは」「計画の特徴は何なのか」...。「最終審査会のプログラム」に次の言葉がありました。「目的をどのようなものとして、誰のために設定しているのか」「計画の過程は当事者にとって魅力的な仕事であったのか」「地域住民や関係者の関心を集めることができたのか」「なぜ中心となってその人が事業に打ち込み計画を遂行したのか」そして「こういった諸点が計画を魅力的にしている...」

私達の計画「南信州いいむす21の展開を地域ぐるみで」は、4番目に萩本範文研究会代表により飯田市全景を背景とした20枚のパワーポイントに沿って力強くプレゼンされました。「南信州いいむす21が地域の人達に受け容れられ、定着し、美しい町が次の時代に確実に受け継がれ、この考え方もまた外部に情報発信できる、ISO14001の代わりになるようなブランドができたらと、そんな夢を持ちながら...」と締め、時間もピタリ。質疑、何とほぼ全員から手が上がり、時間を超えての質疑応答。「自然豊かな地域でどんな環境改善があるのか」「飯田市と研究会だけが頑張ってるのでは」「町村の反応は」「こうした取り組みを全国に広めて欲しい」など。

審査も難航したらしく時間延長で、熊田学会長からパワティに富み僅差であったとの講評。4つの優秀賞()と1つの特別賞()も決まり、当計画も含め6計画が地域での先進的事例としてUNU-UNEPにより英訳され開発途上国に紹介されることになっています。

この名誉ある受賞をバネに「南信州いいむす21」を取り組み事業所とともにみんなで地域の文化に築き上げていきましょう。【ご意見、お問合せ】

沢柳俊之 p05300@tamagawa-seiki.co.jp

小林敏昭 kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp

「南信州いいむす21」新たな展開へ

「飯田青年会議所」29人が取組宣言 !!



12月27日、飯田青年会議所の平栗秀信理事長、棚田稔副理事長、原誠環境イノベーション委員長、井坪正、佐久間秀樹副委員長の5人が多摩川精機株式会社へ萩本範文研究会代表を訪ね、会員29人の「南信州いいむす21」取組宣言書を提出しました。10月1日に3会員からすでに取組宣言が出ていますので、全会員74人のうち32人が「南信州いいむす21」に正式に取組むことになりました。

平栗理事長から「ISOの取得も大切だが、こうした誰でも始められ地域版の取組を通じて、この地域が改善されるはず。中小企業からも一歩ずつ確実に始めたい。本当は、全会員の宣言書を提出したかったが、温度差もあり、ひとつの区切りとして、このような数となった。これからも青年会議所として進めていきたい」と。

萩本代表は、「縁あって青年会議所の皆さんに企業内から地域へのぐるみ運動としての環境改善を話し、このような仕組みづくり、参加という広がりとなった。最近では認証だけでなくISOの精神を大切に、地域独自のシステム運用や自己宣言などの動きもある。環境改善の必要性は誰もが認識しているが一歩踏み出して仲間と組んで行うことが大切。我々事業所よりも青年会議所の取組の方が一層市民レベルに近づいた。形も大事だが、中身も大事、3か月後に揃って登録証が受けられるよう、青年会議所の大きな課題として取り組んでもらいたい。研究会の支援体制も効果が上がるように組織や運営を早急に整備し直したい。」と応えました。

更に萩本代表は、「地域版ISOは、東京や京都でもあり、何もこの地域だけの取組ではないが、実際の取組を現場で確認、自治体が認証機関で企業がボランティアでそれを支えるという形態は、全国的にも珍しいのではないかと。これが全国に広がっていけばという思いもある。また、青年会議所が地域ぐるみで立ち上がったということは、全国でも大きな意義があるのでは。」

平栗理事長も「全国745組織、約5万4千人の会員、奉仕・修練・友情の三つの信条で活動している青年会議所の中でも飯田の取組は誇れるものと信じている。役員は、単年度任期であるが、継続した取組としたい。」と。

飯田青年会議所の29事業所は、次のとおりです。

- | | |
|---------------------|---------------|
| ・(株)アース・グリーン・マネジメント | ・(株)丸中 中根園 |
| ・片桐屋呉服店 | ・(有)梅野屋呉服店 |
| ・長豊建設(株) | ・(株)石田電気工事 |
| ・(有)眠ハウスもりたけ | ・(有)山一 |
| ・(有)丸木屋商店 | ・(有)砂弘温泉 |
| ・松尾榮仏画制作室 | ・太田建設(株) |
| ・(有)花の青山 | ・(株)オリエントトラベル |
| ・赤石漬物(株) | ・(有)扇屋本店 |
| ・(株)原鉄 | ・田中こうじ店 |
| ・(株)ダイマル | ・(有)梅村紳士服 |
| ・(有)桜井自動車工場 | ・吉服商会 |
| ・龍共印刷(株) | ・クリーニング新光舎 |
| ・(有)魚国 | ・後藤製材建設(株) |
| ・明和工業(株) | ・(有)ダスキン飯田 |
| ・(有)ソノダ | (順不同) |

「南信州いいむす21」は、南信州地域において21世紀に展開する環境マネジメントシステム (Environmental Management System:略してEMS:いいむす)です。取組宣言以降3か月以上取組のあった事業所の申請により研究会が現地確認で登録審査し、その結果を広域連合が登録判定し、登録証を発行し、その後も状況を確認していくというものです。研究会と南信州広域連合が連携して仕組みをつくり10月から運用を開始しました。この12月27日、飯田青年会議所の29事業所のほかに、準備を進めていた「財団法人野外活動センター」からも取組宣言が提出されました。

取組宣言は合計で34、この他、いくつかの事業所が準備段階です。研究会の支援体制が不十分でもあり積極的なPRをしていませんが、青年会議所をはじめ、動き出しました。行政機関での取組準備も始まり、受ける研究会、さあ、大変です。研究会では、当面次のような支援を計画しています。支援チームを編成し、事業所を訪問し、アドバイスを行う。各グループ毎に日程を決め、訪問・アドバイスを行う。1月25日までに、訪問を終え、1月31日まで報告書を提出する。訪問した様子をまとめて、2月に説明会(報告会)を行う。

中部の未来創造大賞等の受賞、信州環境フェアへの出展、そして「南信州いいむす21」のスタート等々、年末まで大きく変動した1年でした。本当にお世話になりました。来年は研究会が目指す地域ぐるみでの環境改善活動にとっての正念場です。会員はじめ皆さんの御協力をお願い申し上げます。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之 p05300@tamagawa-seiki.co.jp

小林敏昭 kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp

第2回「中部の未来創造大賞」

国土マネジメント部門優秀賞、受賞！！

地域ぐるみで ISO14001、「南信州いいむす 21」の展開による環境改善

「中部の未来創造大賞」は、地域づくりのための活動を表彰し、新しい時代にふさわしい中部の発展と啓発を促進しようとするものです。対象は、愛知、岐阜、三重、静岡、長野の各県における個人、グループ又は団体(自治体、企業、NPO等)の幅広い活動で、国土マネジメント・住民参加・社会貢献・建設文化の4つの部門があります。主催は、事務局である国土交通省中部地方整備局企画部はじめ5県の建設部・土木部、中部電力など24団体による組織「中部の未来創造大賞推進協議会」です。2回目の今回は、4部門で63件の応募があり、学識経験者等7人からなる表彰委員会による書類審査・現地調査を経て、大賞2件、優秀賞7件、特別賞2件が選考されました。

地域ぐるみ環境ISO研究会は、住宅・社会資本の整備、その有効利用・環境保全・創造等についての総合活動を対象とした国土マネジメント部門の優秀賞を受賞しました。書類審査の他、10月9日のオムロン飯田での現地調査を受けての受賞で、表彰パンフレットにある活動の紹介は、次のとおりです。「環境文化都市を目指す飯田市と市内の企業が地域ぐるみでISOへ挑戦しようと研究会を結成し、国際環境企画ISO14001の取得促進と飯田版ISOの策定を目指している。活動理念である「地域の自然を残し、持続可能な地域づくりのため、新しい環境改善の地域文化を創造する」ことを具体化するために、ISO14001を認証取得、環境改善活動を通じて職員意識を市民意識までに高めること、小規模個人事業所へ環境改善プログラムの提供支援、飯田市が展開する環境行政を支援すること等を活動の内容としている。」

受賞会場の名古屋通信会館で、大賞表彰に引き続き、優秀賞最初に表彰委員長の松尾稔名古屋大学総長から萩本範文研究会代表が賞状と賞金5万円を受けました。松尾委員長は、選考の総評を次のとおり行いました。「これからの社会資本整備には、地域の特色・伝統を生かした住民の参加する「まちづくり」が大切な要素となってきた。この賞は、創造性、貢献性、発展性、継続性、自主性の5つの視点で審査している。団体からの応募は60%、13件がNPO。住民参加の9割が環境と地域のエネルギーを感じた。活動期間も10年以上が15%(最高25年)、3年以内が50%と新しい活動がどんどん始められている。ある程度の実績を見る必要があり、再チャレンジ11件のうち4件が受賞。それぞれの活動から個性を活かしつつ、困難を乗り越えて地域を良くしていこうとする意欲、関心の高

さ、活動の広がりが感じられた。これからも更なる地域の発展に寄与する創造性豊かな活動が推進されることを期待したい。」

大賞のひとつは、国土マネジメント部門「清水港・みなと色彩計画推進協議会」の「清水港・みなと色彩計画による景観形成」。日本三大美港とはいえ、老朽化した施設が建ち並び、色に統一性もなく殺伐とした港になってきた清水港を、色彩の面から個性的で魅力にあふれ、活気と潤いのある港とするため、環境と調和し、地域の機能と特性にあった色彩計画による官学民が一体となった推進活動です。地域特性を踏まえた配色基準の策定、協議会・アドバイザー会議の設立により、塗り替え時期の色彩計画の提案・指導という10年間に及ぶ活動の結果、富士山を背景とする自然環境と人工構造物の色彩が調和し、美しい港に変貌しつつあります。大賞のもうひとつは、住民参加部門の「名古屋の母なる川「堀川」再生を目指して」。名古屋市の中心を流れる堀川の再生を願い、美しい堀川、楽しめる堀川の実現を目指し、堀川が身近に感じられるまちづくりに貢献するため設立された「クリーン堀川」(6団体で構成)の取組。大賞については活動報告があり、活動規模の大きさ、取組の広がりは、さすが大賞と感じられました。

第1回、第2回を通じ長野県では、当研究会が唯一の受賞というのは、すごい名誉であると同時に少し寂しい気がしてなりません。今年10月25日にイイノホールで受賞した「リサイクル推進協議会長賞」も全国では数多いのに長野県では当研究会だけでした。長野県内にも、素晴らしい活動を続けている個人や組織や団体がもちろん多数あります。表彰への応募、受賞についての考え方の違いもあるでしょうし、賞の存在を該当者の全てに周知することは、難しいですが、ただ、情報がどこかで止まってしまっていたとしたら、これは問題です。

日本計画行政学会主催「第7回計画賞」最終審査へ

「計画賞」は、優れた計画を発掘し、これを公表・表彰することで、計画を活用し、評価し、互いに刺激し合うという相乗効果をねらい、社会全体の計画能力の革新的進歩に大きく寄与しようとするものです。「第7回計画賞」応募18件のうち10件が予備審査を通過した旨の連絡がありました。計画「南信州いいむす21の展開を地域ぐるみで」は、研究会と飯田市の連名で応募したものです。最終審査は、1月31日幕張メッセ(千葉)での公開プレゼン後、事前・会場投票をもとに日本放送会長など17人が最終審査会で当日決定し、表彰が行われます。萩本研究会代表がプレゼンを行うこととなっています。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之 p05300@tamagawa-seiki.co.jp

小林敏昭 kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp

地域ぐるみ環境改善活動

「南信州いいむす21」に 4事業所が10/1取組宣言!!

地域ぐるみ環境ISO研究会と南信州広域連合は、「南信州いいむす21」という新しい環境改善システムを構築・準備し、10月1日からスタートさせました。

スタートに相応しい月曜日となりました1日、夕方までに、4つの事業所が、「取組宣言書」を研究会に提出し、環境に配慮した事業活動を展開することになりました。

- ・(株)アジマ自動車学校 38人(交通教育)
- ・井坪設備工業(有) 6人(給排水衛生設備、管工事)
- ・(株)はたの 6人(業務用食品卸)
- ・エコトピア飯田(株) 7人(新聞古紙の断熱材リサイクル)

この地域独自の環境マネジメントシステムの構築と開始を求める声はあったものの、果たして、実際に取り組んでもらえるか心配していましたが、ひと安心。

4事業所は、これから3か月間以上、自らが掲げた環境方針と取組目標に基づき活動し、自分たちの取り組みが登録審査レベルに達したと判断したとき、研究会に申請し登録審査を受けることができます。

事業所による取り組みが10月・11月・12月と順調に進み、研究会による登録審査が行われ、広域連合による判定を受ければ、来年1月には、「南信州いいむす21」の登録証が発行されることとなります。

研究会による取組事業所への支援は、3か月後の登録審査まで待つのではなく、取組目標をいかに具体的なプログラムとして事業所内で行ってもらうか、直ちに現場を見て進めていくこととなります。

「南信州いいむす21」は、ひとつのシステムですが、事業所の業務内容や事業所内での位置づけや目指すものの違いにより、事業所ごと別々のシステムになります。

研究会は、その事業所独自の「南信州いいむす21」を環境改善を行う事業所と一緒に構築していきます。

現在、研究会は、環境ISOの認証取得済みの15事業所を含め24事業所ですが、研究会に入っていないこの地域の環境ISOの認証取得済みの事業所へ研究会への参画を呼びかけ、研究会全体の力をつけることも求められます。

研究会は、「南信州いいむす21」を開始した責任として、取組事業所から研究会に求められる支援ができるような仕組みと体制づくりを、これから本気で早急

に進める必要があります。

「取組宣言書」が提出された4事業所のうち、最初に提出のあった(株)アジマ自動車学校について紹介します。

(株)アジマ自動車学校

【環境方針】

私たち、アジマ自動車学校職員は、交通教育と事業活動を通じ、「水」と「空気」を大切に、環境保全と汚染予防に取り組みます。

【取組目標】

1. 私たちは、交通教育を通じ、環境意識の高い安全ドライバーを育成します。
2. 私たちは、事業所施設内外の美化活動を通じ、環境保全に取り組みます。
3. 私たちは、自動車に関する廃棄物の適正処理を通じ、汚染予防に努めます。



事前に相談がありましたので現地へ出かけ、推進する担当者4人と現場も確認し、教習生から市民からどのように見られているのか、何が問題で、何に取り組む必要があるのかを理解してもらいました。

宣言書も、何度も作り直したらしく、作り直すたびに自分たちのものになり、取組が明確になったそうです。これから事業所内に教育部会、環境保全部会、汚染予防部会の3つの部会を作って、推進していくようです。きっと素晴らしい成果を掴むと確信しています。

金木犀のかおりが雨上がりの後の秋晴れを一層爽やかにしていました。「南信州いいむす21」がはじまり、本当に忙しくなっていました。(本音)

【ご意見、お問合せ】、【配信解除】

沢柳俊之 p05300@tamagawa-seiki.co.jp

小林敏昭 kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp

地域ぐるみ環境改善活動

「南信州いいむす21」

10月1日、スタート



説明する萩本代表

1 「南信州いいむす21」とは

「南信州いいむす21」は、環境マネジメントシステム (Environmental Management System) の略称EMS (イーエムエス) を、E (いい) M (む) S (す)、「いいむす」と名付け、南信州地域で21世紀に展開していくとするものです。

ISO14001は、環境マネジメントシステムの国際規格ですが、この地域でも、多くの企業が認証取得済み、あるいは取得挑戦中です。ISO14001は、社会経済活動とのバランスの中で環境保全及び汚染の予防を目的とした自発的な取り組みです。

しかし、このISOの認証取得には、多くの手間と費用がかかり、この地域の大半を占める小規模・個人事業所にとっては、大きな負担となっています。

このISO14001の基本的な取り組みをこの地域独自の簡易システムとして展開する環境改善活動が、「南信州いいむす21」です。

手間と費用のハードルを低くして、この地域に広がっている環境改善活動をもっと取り組みやすく、さらに広めようとするものです。計画(Plan)し、実施・運用(Do)し、点検・是正(Check)し、見直す(Action)というP-D-C-A (Plan-Do-Check-Action)を通してシステムの継続的改善を目指すことは、ISO14001と同じです。

「南信州いいむす21」は、事業所ごとに自らの事業活動に伴って生じる環境負荷を低減させるための仕組みをつくり、環境方針、取組目標を自主的に定め、活動していくものです。「南信州いいむす21」は、事業所での自主的な小さな環境改善活動の取り組みが地域全体での大きな運動になることを、各事業所での小さな点としての活動が地域全体の大きな面としての運動になることを目指します。

2 取り組みを登録審査し

判定し、登録証を発行します。

事業所は、取組宣言以来3か月以上行っている環境

に配慮した事業活動について、申請により登録審査を受けることができます。

審査は、「地域ぐるみ環境ISO研究会」(以下「研究会」という)が現地において行います。

「南信州広域連合」(以下「広域連合」)は、市町村による資格審査結果と研究会による登録審査結果により判定し、登録証を発行し、ホームページや広報などで公表します。

研究会と広域連合は、連携してPRを行い、システムの普及浸透と定着を図ります。取り組み事業所の信頼度の向上やイメージアップ、さらには費用のコストダウンをはじめ事業の業績アップを目指します。

3 まずは基礎的レベルから

「南信州いいむす21」という新しいシステムは、流れや様式が決まり、スタートすることになりますが、詳細については相談対応や支援を通して実際の環境改善を行う事業所と一緒に構築し、一緒に改善していきます。

10月から運用するシステムは、事業所の実状に合わせて無理せずに計画を立て環境改善活動を行う基礎的なレベルのものであります。

研究会は、地域の事業所のニーズに応じて難易度が違ういくつかの「南信州いいむす21」を構築・運用しようと考えています。

すでに環境ISOを認証取得した企業からも、ISOの維持費用に苦勞し、ISO14001と同レベルのこの地域独自のシステム構築と開始を求める声が出ています。苦勞して認証取得し運用しているISOの環境改善活動のレベルを落とすことなく、地域のシステムに移行したいというものです。また青年会議所や企業のグループ等で環境改善の自発的で確実な芽が育っています。

研究会では、環境ISO認証取得のノウハウを共有し、支援できる体制づくり、仕組みづくりを目指し、事業所間の相互環境監査の実施や環境審査員の資格取得などのレベルアップを図っています。

私たちは、「南信州いいむす21」がこの地域に受け入れられ定着し、外に情報発信できるブランドとしてISO14001の代わりになることができれば、そんな夢を持ちながら、このシステムをスタートさせます。



記者会見で(古井広域助役・田中広域連合長・萩本代表)

【ご意見、お問合せ】、【配信解除】

沢柳俊之 p05300@tamagawa-seiki.co.jp小林敏昭 kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp

「信州環境フェア 2001」出展 9/21-22in やまびこドーム



9/21 金, 22 土に「信州環境フェア 2001」が開催され、当研究会も出展・参加しました。ご報告します。

「信州環境フェア 2001」は、長野県が実施した最初の環境イベントでしたが、運動会や他のイベントと重なり来場者の出足等心配されました。来場者は、1 日目は金曜日ということもあり低調でしたが、2 日目は実に多くの方が見に来ていただきました。

全体的には、お祭りというムードが漂ってはいましたが、県内の多くの企業、団体が様々な環境保全活動に取り組んでおり、刺激と感銘を受けました。出展エリアを取り囲む形でのフリーマーケットは、多くの人の足を止め、出展エリアとは違った人気と活気がありました。

地域ぐるみ環境ISO研究会のブースは、メインステージの正面すぐそばという地の利もあり、多数の方々に見ていただくことができました。今回の出展は、インパクトある立体的なものをという無理な願いをしました。ブースへの出展に快くご協力いただきました多くの事業所の皆さん、搬入・設営・説明・搬出に当たっていただきました皆さん、様子を見に来て励ましていただきました皆さんに、心より御礼申し上げます。何度もフィーバーしたパチンコ台は、やはり大人気でしたし、それに合わせて踊る太陽光発電のダンシング熊ちゃんには、子供ばかりでなく大人まで、つつい笑顔でした。

来年は、...をしたい、...を用意しなくてはと、早くも「信州環境フェア 2002」に話が進んでいました。10/13~14、飯田勤労者福祉センターでの「生活と環境まつり 2001」にも、今回同様の出展を予定していますので、皆さん、ぜひ見に来てください。

【テーマ】信州環境フェア 2001

~ライフスタイルの転換、生活の中から環境を考えよう~

【期 日】2001年9月21日(金)13:30~17:00
9月22日(土)10:00~16:00

【会 場】松本平広域公園 やまびこドーム

【主 催】長野県、松本市、経営者協会、保全協会ほか

【内 容】

1 出 展

- ・エリアは、学校エリア、環境ビジネスエリア、信州の自然・森エリア、商店街エリア、生活エリア、エコの道エリアの6つに分類され、合計78団体の出展がありました。
- ・飯伊地方からは、地域ぐるみ環境ISO研究会、中部電力飯田支店、多摩川精機そして吉川建設が出展

2 経営協会：第3回地球環境大会

- ・基調講演 環境を切り口に商店街の活性化
早稻田商店街 会長 安井潤一郎氏
- ・事例発表 東京ガス(株) 都市ガス利用の省エネ対策
中電飯田支店 水力発電における環境改善活動
- ・地球環境号 From Nagano 第3巻の発行

3 イベント

- ・クイズDEエコロジー
- ・ミエコジ-劇場「ながのさん一家のエコライフ」
- ・エコロジーミュージカル
- ・エコジ-ミーティング「田中知事との環境車座集會」

4 その他

- ・同時開催イベントとして
長野朝日放送特別番組「6時間生テレビ」

5 「リサイクル推進認定証」が公布されました。

- ・9/22(土)、ステージイベントで長野県循環型社会形成推進協議会より、当研究会に「リサイクル推進認定証」が公布され受理してきました。
- ・本年度は、県内の25団体が認定されましたが、当日は、当研究会を含めて5団体が認定証の公布を受けました。
- ・飯伊地方からは、吉川建設、鼎商工会が認定証が公布されました。



【ご意見、お問合せ】、【配信解除】

沢柳俊之 p05300@tamagawa-seiki.co.jp

小林敏昭 kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp

「環境文化都市」の実現を 地域ぐるみで



飯田市長 田中秀典

小泉内閣が断行する経済・財政の構造改革は、地方の行政運営や住民生活に直接関わる「痛み」として具体化することは必至です。このような時にこそ、多様化し増大する市民の要望意見に飯田市としてどのように対応できるかが試されるものと考えています。新たな実行段階に入っている地方分権は、自己決定・自己責任、すなわち地域自立が求められるものです。飯田市も厳しい財政状況にあります。私は常々、市の職員に飯田市のみならず飯田下伊那全体のあるべき姿や将来を考え模索して欲しい、市役所が元気になることがこの地方の活性化になると言っています。そして、着実な改革に当たって前例に捕らわれることなく、量から質の時代へ、勇気を持ってチャレンジして欲しいと言っています。

この2月に、環境省の勧めにより「ローカルアジェンダ21日韓ワークショップ in ソウル」に参加し、飯田市の環境文化都市の取り組みについて講演する栄誉をいただきました。このような国際会議に参加するのは初めてで、一抹の不安と期待をもって参加しました。というのも「環境文化都市」実現に係る政策は、日本の一地方都市の取り組みですから、このことが果たして日韓という国際的な場での議論にかみ合うのかといった心配があったからです。しかし、会議は、そんな心配が私たちの思い過ごしであることをはっきりと教えてくれました。日本と韓国の違いこそあれ、環境に対する考えは、共通の課題であり、共に努力すべきことをあらためて認識したところです。地方自治体の規模や取組の進捗状況の違いはあっても、このワークショップでの両国の取組の事例発表から実に大きなヒントを数多くいただきました。

飯田市は、1996年に「人も自然も美しく、輝くまち飯田 - 環境文化都市 -」を目指す都市像とする第4次基本構想・基本計画を策定し、これに基づく施策・事業を積極的に展開してきました。策定当時は、21世紀が環境の世紀とかいった発想はなく、むしろ「環境と文化がなぜ一体となるのか」といった言葉に対する議論が盛んでした。この頃から、多くの市民は、すでに環境に対する深い関心を持っており、飯田市の市民参加による持続可能な地域づくりは、すでに始まっていたこととなります。中間年度に当たる昨年は、行政のみならず議会を始め広く市民からの要望・意見も反映し、時代の変化に対応していくため全般にわたり基本構想・基本計画の見直しを行いました。今年度からの後期五か年を仕上げ期、さらに「環境文化都市」実現への第二ステージと位置づけ、産業づくり・都市づくり、人づくりの一層の具体的推進を目指すことにしています。

「環境の世紀」の大合唱の中、「環境文化都市」を展開していることの正しさを確信すると同時に「環境文化都市」を掲げる自治体としての責任の重大性を感じています。「環境文化都市」は、昨年1月認証取得した環境ISOはじめ環境施策のみならず、飯田市の行政施策全体の集大成に他なりません。天竜峡エコバレープロジェクトや市街地再開発もまだまだ始まったばかりです。そして言うまでもなく「環境文化都市」は、行政だけで実現できるものではなく、市民・企業・行政のパートナーシップによって実現するものです。そうした意味で、飯田市も参加する「地域ぐるみ環境ISO研究会」の位置づけは、実に大きく、市としても積極的に関わり続けたいと考えています。今後も環境に対する取り組みを通して飯田市を内外に情報発信していきたいと強く願っています。

「環境文化都市 - 飯田」というブランドは、まだまだ植えたばかりの「りんごの苗」です。みんなが力を合わせて、りんご並木のような世界に通用する大きな木に育て、立派な実をたくさん実らせたいものです。

(事務局の怠慢で、1から2までずいぶん時間がかかってしまいましたことお詫びいたします。)

(ご安心ください。研究会は、その理念と目標に向かって着実に活動を展開しています。)

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之 p05300@tamagawa-seiki.co.jp

小林敏昭 kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp

ぐるみ通信は、転載、複写、大歓迎です。

ぐるみ通信の創刊にあたって



地域ぐるみ環境ISO研究会
代表者 萩本 範文
(多摩川精機株式会社代表取締役社長)

「地域ぐるみ環境ISO研究会」が、環境メール情報「ぐるみ通信」の不定期発信を始めることになりました。

環境問題に関する国民の関心は、ここ数年非常に高まっています。地球環境を配慮した持続的で真に活力のある21世紀型の経済社会を実現していくためには、技術的な対応だけでなく現在の大量生産・大量消費・大量廃棄型の経済社会から地球の資源を最大限有効に使う「環型経済社会」へと産業構造や社会システムそのものを変革していくことが必要です。そのためには行政、企業、個人が環境の現状をしっかりと認識し、それぞれの立場でどのように取り組むべきかを考えて行動する必要があります。

我々の研究会は、1997年の11月に飯田市役所を含めた6事業所で活動を開始しましたが、現在は、その輪も広がり23事業所が参加するに至っています。

「環境問題は、点でなく面で行う地域活動、一事業者がそのサイト内で取り組んでも、本来の環境問題の解決にはならない。地域の事業所、自治体がその枠を超え、連携して“ぐるみ運動”を展開することによって地域全体がレベルアップする。」

「ISOの考え方が家庭に伝われば、その取り組みは万を超える草の根運動になる。結果として環境意識の高い街として全国にアピールすることができれば、人やモノをこの谷に呼び、地域の活性化にもつながる。」

研究会は、「地域の自然を残し、持続可能な地域づくりのため、新しい環境改善の地域文化を創造する。」を活動理念としています。また、次の4つを活動内容としています。「ISO14001を認証取得し、維持するための技術及び知識を共有し、支援すること。」「事業所内の環境改善活動を通じて、従業員、職員意識を市民意識までに高めること。」「いいだ版環境ISOを構築し、小規模・個人事業所へ環境改善プログラムを提供し、支援すること。」「飯田市の展開する環境行政を支援すること。」「それらに基づき、5つの分科会に分かれ、活動を展開しています。」

お互いに情報交換し、お互いに学び、地域の事業所が連携して環境改善活動を行い、その輪を家庭にまで広げていけば、緑豊かな地域として生き残っていけると信じます。また、この地域にあつては、経済環境の悪化がもたらす空洞化も危惧されます。しかし、地域ぐるみの根の生えた環境改善活動を契機として、お互いが連携し、技術や知恵を育み・蓄え、この地を活力のある地域としたいものです。

これからは事業活動のあらゆる面で環境への配慮を組み込むことが必要で、環境への配慮を欠く事業所は取引先や消費者から拒否されることとなります。先進事例を含めた我々の発信する情報が事業所の活躍機会の創出につながればと願っています。

我々は、日本の中心に位置する伊那谷(いいだ)から世界に向けて羽ばたこうとしている『地域ぐるみ環境ISO研究会』の参加事業所メンバーをはじめ、広く環境、生活安全、省資源に関する情報等々を発信していくつもりです。事業所や個人が多く意見を出し合い、そして考え、行動する手助けとなるような新鮮な情報を載せ、みんなの元気につなげたいと本気で考えています。敢えて環境という文字をタイトルから外し「ぐるみ通信」として、自由で、楽しいメールニュースとしたいとも考えています。

伊那谷(いいだ)での「地域ぐるみ環境ISO研究会」というボランティアな取り組みの実験を、今まで以上に、もっと素晴らしいものにするために、「ぐるみ通信」を皆さんと一緒に大きく育てていきたいものです。

【研究会23事業所】旭松食品(株)飯田工場/私(株)飯田(株)/多摩川精機(株)/三菱電機(株)中津川製作所飯田工場/平和時計製作所(株)/飯田市役所/飯田 TDK(株)/中部電力(株)飯田支店/横河プレジジョン(株)/(株)八十二銀行飯田支店/(株)はたの/井坪設備工業(有)/(株)光和/吉服商会/飯田信用金庫/東日本システム建設(株)飯田支店/(有)アイズ精工/エコー飯田(株)/(株)アース・グリーン・マネジメント / パチンコグループ/小木曾建設(株)/盟和産業(株)/多摩川精機協同組合 (参加順・50音順)

今後「ぐるみ通信」では、次のような情報の発信を予定しています。環境ニュース 改善事例紹介 環境ビジネス紹介 レポート 企業紹介 イベント、講習会情報 イベント 困ったこと相談 編集者、読者のつぶやき など

【発行・編集】地域ぐるみ環境ISO研究会事務局
<http://www.city.iida.nagano.jp/kankyo/kennkyuu/index.htm>

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之 p05300@tamagawa-seiki.co.jp

小林敏昭 kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp

ぐるみ通信は、転載、複写、鉄血宣言大歓迎です。